

# 2022年度 第2四半期決算の概要について

2022年11月11日

住友精密工業株式会社

## I. 2022年度 第2四半期決算 - セグメント業績（売上高及び営業損益）

[ 前年同期比 ]

<対米ドル為替・期中平均>	<109>	<131>	(億円)
	2021年度 第2四半期 累計実績	2022年度 第2四半期 累計実績	前年 同期比 差異
<b>売上高</b>	188.1	194.5	6.3
航空宇宙	93.4	87.6	-5.7
産業機器	57.2	44.9	-12.2
I C T	37.5	61.9	24.3
<b>営業利益</b>	4.6	-1.8	-6.5
(営業利益率)	2.4%	-0.9%	-3.4pp
航空宇宙	-0.4	2.8	3.2
産業機器	-0.4%	3.2%	3.6pp
I C T	5.7	-5.6	-11.4
	10.0%	-12.5%	-22.4pp
	-0.6	1.0	1.7
	-1.6%	1.6%	3.2pp

### <航空宇宙>

民間航空機向け機器は円安影響及び需要の一部回復に伴い販売が増加したものの、防衛装備品の納期が当年度は下期に集中していることにより減収。損益は円安効果等により改善。

### <産業機器>

精密油圧機器は、中国の景気減速に伴う射出成型機の需要落ち込みにより、油圧ポンプの受注が減少したことに加え、産業用熱交換器は前年度に水害復旧に伴う鉄道車両向けの一時的な需要増加があったことの反動により減収減益。

### <I C T>

半導体向けオゾン発生装置及びMEMS・半導体製造装置の需要増加により増収増益。

## I. 2022年度 第2四半期決算

- 概況

〔前年同期比〕

	＜対米ドル為替・期中平均＞ ＜対米ドル為替・期末＞	<109> <111>	<131> <144>	(億円)
		2021年度 第2四半期 累計実績	2022年度 第2四半期 累計実績	前年 同期比 差異
売上高		188.1	194.5	6.3
営業利益		4.6	-1.8	-6.5
(営業利益率)		2.4%	-0.9%	-3.4pp
営業外収益		5.0	8.5	3.5
営業外費用		-2.3	-2.0	0.2
経常利益		7.4	4.7	-2.7
(経常利益率)		3.9%	2.4%	-1.5pp
特別損益		-9.1	-	9.1
税引前当期利益		-1.6	4.7	6.3
当期純利益		-2.4	4.7	7.1
EPS(円/株)		-45	89	135
ROE		-0.8%	1.6%	2.5pp
配当(円/通期)		0	25	-

営業外損益： 米ドルに対して円安が進行したことに伴い、為替差益を5.5億円計上（前年同期は為替差益1.7億円）。

特別損益： 当期の計上はなし。  
前年同期は、2019年12月に発覚した高圧ガス保安法に基づく登録特定設備製造における不適切事案における追加の損失見積額 約12億円を顧客補償等対応費用引当金繰入額に計上したことが主体。

[ 前回予想比較 ]

<対米ドル為替・期中平均>	<115>	<133>	(億円)
	2022年度 通期 前回予想	2022年度 通期 今回予想	前回予想 との差異
<b>売上高</b>	521.8	540.0	18.2
航空宇宙	227.7	242.6	14.9
産業機器	130.3	123.8	-6.5
I C T	163.8	173.6	9.8
<b>営業利益</b>	32.1	33.1	1.0
(営業利益率)	6.2%	6.1%	0.0pp
航空宇宙	5.1	19.2	14.1
産業機器	2.2%	7.9%	5.7pp
I C T	4.5%	-4.0%	-8.4pp
	21.2	18.8	-2.4
	12.9%	10.8%	-2.1pp

<航空宇宙>

民間航空機向け機器は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から徐々に需要が回復してきており、また円安進行により採算性の改善も進み、売上高及び営業損益とも前回予想を上回る見込み。

<産業機器>

精密油圧機器は、中国における射出成型機の需要が低迷しており、油圧ポンプの受注減少を主体に売上高及び営業損益とも前回予想を下回る見込み。

<I C T>

在外子会社の為替換算により売上高は前回予想を上回るが、半導体関連部品の調達難に起因する顧客からの納期変更要請等により販売数量が減少することから、営業損益は前回予想を下回る見込み。

(参考) 受注残高と下期売上高

(億円)

	受注残高 当第2 四半期末	2022年度 下期売上高 今回予想
<b>合計</b>	468.5	345.5
航空宇宙	263.3	154.9
産業機器	63.4	78.8
I C T	141.7	111.7

[ 前回予想比較 ]

	<対米ドル為替・期中平均> <115>	<133>	
	<対米ドル為替・期末> <115>	<135>	(億円)
	2022年度 通期 前回予想	2022年度 通期 今回予想	前回予想 との差異
売上高	521.8	540.0	18.2
営業利益	32.1	33.1	1.0
(営業利益率)	6.2%	6.1%	0.0pp
営業外収益	2.7	9.6	6.9
営業外費用	-3.7	-3.7	0.0
経常利益	31.1	39.0	7.9
(経常利益率)	6.0%	7.2%	1.3%
特別損益	0.0	0.0	0.0
税引前当期利益	31.1	39.0	7.9
当期純利益	21.0	28.2	7.2
EPS (円/株)	397	533	136
ROE	7.1%	9.4%	2.3pp
配当 (円/通期) (※)	50	25	-25

(※) 配当予想の変更については、同日付で開示しております「期末配当予想の修正（無配）に関するお知らせ」を併せてご覧ください。

為替レートが円安になったことに伴い、航空宇宙事業を主体に売上高および各利益とも前回予想を上回る見込み。下期の想定為替レートは1ドル 135円。

## Ⅲ. 財務状況

	(億円)				＜参考＞
＜対米ドル為替・期末＞	＜122＞	＜144＞	＜135＞	＜115＞	
	2021 年度末 実績	2022年度 第2四半期末 実績	2022 年度末 予想	2022 年度末 前回予想	
総資産	766	763	835	770	
(内、現預金)	(102)	(80)	(80)	(80)	
有利子負債合計	251	239	258	216	
純資産	292	300	322	310	
D/E レシオ	0.88	0.82	0.82	0.71	
(NET D/Eレシオ) (※)	(0.52)	(0.54)	(0.56)	(0.45)	
自己資本比率	37.3%	38.4%	37.7%	39.4%	
ROE	8.4%	1.6%	9.4%	7.1%	
フリー・キャッシュ・フロー	23	6	-10	16	

(※)NET D/Eレシオ = (有利子負債合計 - 現預金) ÷ 自己資本

- ・ 総資産は、現預金を圧縮したものの、在外子会社の為替換算による増加で当上期末はほぼ横ばい。当年度末は、円安の影響に加えて、半導体向け装置を主体に在庫を約30億円積み増すことにより、前回予想に対して増加の見込み。
- ・ 有利子負債は、現預金の圧縮により当上期末は削減となるも、当年度末は円安や在庫積み増しにより、前回予想に対して増加の見込み。D/Eレシオは、当上期末 0.82 (NET D/Eレシオ 0.54) に改善。当年度末は、0.82 (NET D/Eレシオ 0.56) となる見込み。
- ・ フリー・キャッシュ・フローは、在庫増加により当年度は赤字見込み。

(注) 本資料の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、予想に内在する不確定要因により、実際の数値は当該予想とは異なる場合があります。

(注) 本紙に記載している金額は、表示単位未満をすべて切り捨てております。

以上